

## 看護大学1年生入学時PBL(Problem-based learning)グループ作業後の自己効力感 —行動項目と自己効力感との関連—

新潟医療福祉大学看護学科 本間千代子,石塚敏子  
阿部明美,川崎久子,立川由紀子

### 【背景】

入学直後から実施するグループ学習を中心とした能動的なPBL学習方式は学生がすぐにグループに溶け込んで学習を進めることは困難である。そこでPBLの導入としてグループ作業を中心としたプログラムを作成し実施した。その評価を探るためにBandura(1977)が社会的学習理論の中で初めて提示した自己効力感(self-efficacy)という概念に留意した。(Bandura1997)は「自己効力感とはある行動を遂行することができる、と自分の可能性を認識していることを自己効力感と呼び、自己効力感が強いほど実際にその行動を遂行できる傾向にある」とした。自己効力感を手掛かりとし、PBLグループ授業評価を行動した項目と自己効力感の関連を探ることで評価視点の示唆が得られたので報告する。

### 【方法】

1)対象:看護学科1年生89名 2)プログラム:2011年4月7日全体オリエンテーション時「PBL学習法とは」講義40分、実施日時:2011年4月15日1限、2限PBLグループでの自己紹介、他己紹介、60分間の情報伝達作業による目的達成課題の実施(ゆかいなチャッターランド)、グループ発表、3)調査:2011年4月19日集合調査法、質問紙はSherer, M. (1982)からSE尺度の日本語訳で検証したものをを用いた。下位概念は①行動を起こす意思、②行動を完了しようと努力する意思、③逆境における忍耐、からなる23項目5件法の尺度。質問紙の中に自由記述を追加した。4)分析:記述統計、SE得点と行動項目の重回帰分析、自由記述内容の分析。5)倫理的配慮:調査は成績とは無関係、無記名、プライバシーの秘守、教員が研究し学習方法を考えていくためのものということを説明し任意であることを述べ質問紙の冒頭にもそのことを記述した。

### 【結果】

1. 対象の背景  
看護学科に入学した1年生89名  
質問紙の回収率97.7%(87名)  
男子学生10名(11.5%)女子学生77名(88.5%)  
2. 自己効力感得点の分析  
自己効力感得点平均74.64±10.38  
尺度の信頼係数Cronbach's  $\alpha$ . 872

表1 行動項目と自己効力感との関連

	標準偏回帰係数( $\beta$ )	
自分のありように気が付いた	.014	
発言や行動で自分も動いた	.452**	
楽しく活発になっていった	-.009	
グループ学習の仕方がわかった	-.065	
ゴールに結びついて行った	-.022	
重相関係数( $R$ )	.412***	
	**p<.01	***p<.001

### 3. 自由記述の内容

学生87名中、自由記述の欄には69名(79.3%)の記述があった。項目数は106あり内容を分析すると、意見に関するもの41、有意義であったこと19、実施困難性15、お互いの協力12、運営上の役割5、その他14、に分類された。

### 【考察】

PBLグループ学習は態度、試験、出席、を評価として割合を設定しており、発表の資料や最後のまとめの提出ファイルなども参考にしながら一人ひとりの学習評価をしてきた。しかし態度評価の視点として積極的に意見を述べたり調べたり行動している学生に着目してきたがはたしてどうなのか疑問が残っていた。本研究はその疑問をBanduraの「自己効力感」に着目することで関連を探った。情報伝達作業による目的達成課題の実施をPBLグループで実施し、課題を達成するために自分がどのようであったかを振り返る5つの独立変数を設定し、調査した。(表1)その結果、自分のありように気が付いた、楽しく活発になっていった、グループ学習の仕方がわかった、ゴールに結びついていった、は関連が見られず、発言や行動で自分も動いた、が「自己効力感」に関連していた。フィジカルアセスメントの教科でPBL学習方法を実施しているがPBLは事例より疑問や課題を見つけてグループ学習を進めてゆく学習法のため自主的に学習を行うものであり、調べて探求していく姿勢、発言し、反論し、自己の意見を述べなどの学習態度が重要となり、評価の中心である。今後PBLはグループ学習のためグループダイナミックスの効果にも着目し、PBL評価研究を進める必要がある。

### 【結論】

学生が積極的に発言し行動していることと、自己効力感とは関連しており授業での態度評価の反応として着目する視点として妥当であることが示唆された。

### 【文献】

- 1) Albert Bandura 著 原野広太郎監訳 社会的学習理論 金子書房 1979
- 2) 江本リナ 日本看護科学学会誌 自己効力感の概念分析 p39 vol, 20, 8. 2000